

# 瑞祥院

平成 31 年  
3 月 276 号

## 【黒聖龍王尊】

瑞祥院では白鷹龍王尊をお祀りしています。白鷹さんは、慈永和尚が瑞祥院を建立するはるか以前より、大阪狭山市の旧家として、中川家が溝端姓を名乗り存在していた当時より屋敷内にお祀りされている方でありました。そして白鷹さんには対となる黒龍さんがおられます。黒龍さんは、狭山池の中にあるお社でお祀りされています。この度、「狭山池の黒龍を勧請し、白鷹龍王尊と共に祀れ」とのお沙汰が下りました。黒龍さんはお名前が伝わっておりませんので、こちらでお名前をつけさせて頂くことになりました。

白鷹龍王の対なら黒鷹龍王か、とも思ったのですが、黒龍さんが「それはないだろう。他にない？」と渋い顔をされましたので、お名前をうんうん唸りながら考えておりましたら、京都の大原野神社へお参りにいく機会を得ました。

大原野神社の道路を挟んだ向かいに正法寺というお寺がございます。こちらに千手観音様がお祀りされていると現地の案内板に書いてあるのを発見し、大原野神社参拝の後、正法寺もお参りさせて頂きました。

瑞祥院では、千手観音様はお祀りしておりませんが、自宅にございます副住職の自坊の祭壇本尊が千手観音様と持蓮観音様でありますので、これも御縁かと思いつつ正法寺様の千手観音様に手を合わせました。そして懸案事である黒龍さんのお名前について伺いを立てたところ「聖」の字と「しよう」という音を賜りました。

賜りました字と音を使い、「黒聖龍王尊（こくしょうりゅうおうそん）」という名はいかがかと黒龍さんに問いましたならば、首を縦にふられましたので、狭山池の黒龍さんを黒聖龍王尊として勧請し鎮座のため拝みました所、白鷹さんと共に現在鎮座いただきました。

最初、副住職は祭壇で黒龍さんの名に関して伺いを立てても答えを得られず、正法寺で答えを得られたのは、京都の大原野へ赴いたからです。

神仏はこちらが投げかけた問いに必ずお答えくださるわけではありません。時には問いかけても沈黙しか返ってこないこともあります。答えは言わず、「先達に聞け」とだけ返ってくることもあります。このような場合、神仏が我々に期待するのは、自ら経験して学習するということです。

時間と労力を使って大原野へ足を運ぶ・周囲をよく観察して正法寺と千手観音様の存在を知り参拝する、この二点が「聖」の字を賜るための条件でした。副住職、紫蓉は神仏のお導きをいただき、無事条件をクリアすることができました。有難いことです。

黒聖龍王尊勸請にともない、毎月6日に営んでいる白鷹祭を3月より「龍王祭」と改めさせていただきます。

## 【春のお施餓鬼】

2月号の寺報と一緒にお施餓鬼の案内を送付させていただきました。  
春・秋のお彼岸とお盆のお施餓鬼では、お申し込みの精霊を盛大におもてなしし、ご供養致しております。

写真はお盆の時のものですが、お彼岸も同じようにお供えしています。



願主のいない精霊、供養されていない霊は、人間で例えるなら長い間断食していて気力が衰え、体が鉛のように重く思うように動けない、というような状態です。そのような者は、お盆・お彼岸の時期にも行く場所のない迷子です。

皆様が願主となられているご先祖様方や縁ある方々は、お施餓鬼の時期に瑞祥院にいらつしゃいます。願主のいない精霊は、どこに行ったらいいのかわからず、願主ある精霊の後をついてくることがあります。あるいは、願主ある精霊が見かねて連れておいでになることもあります。そのような願主のいない精霊は、お膳の用意してある上段に自力で登ることができません。なので、右端に写っておりますようにハシゴをかけ、お供えをお召し上がりいただけるようにしています。



また、餓鬼さんも施しを求めて集まってきました。

餓鬼は、飢えと渇きに苦しんでいる低い位の者で、荒い波動に属する存在です。精霊方にお供えしておりますお膳などは、丁寧な波動の物なので、餓鬼には世界が違いすぎて認識できません。ですので、餓鬼用のお供えは、わざとぞんざいに扱って用意します。

写真は甘いおせんべい・レーズン・チョコレートシロップ・お茶を床に置いてお供えしています。これらを、乱雑に・おぼんに投げつけるように・下品に用意します。そうしますと、丁寧に扱われていないので、荒い波動をもつお供えになります。このようにわざと荒くお供えすると、餓鬼の世界の波動に近づくので、餓鬼は食べ物・飲み物を認識できるようになります。

お供えをとてつもなく甘くするのは、カロリーを高くするためです。人間は飢えたり、とても疲れるとカロリーを摂ろうとします。餓鬼さんは極限に飢えていますので、聞いただけで胸焼けするような、ドロドロに甘いお供えを用意するのです。



家があるかぎり、その家で飼われていたペット、縁のあった動物というのは必ず存在します。なので、瑞祥院では、お施餓鬼の時に畜生之霊のためのお供えも用意しています。

動物には、机の上に食事を並べて食べる習慣はありませんので、床にお供えしておりますが、こちらは餓鬼さんとは違って、精霊方のお膳と同じように丁寧にご用意しております。

### 【今月のお沙汰】

3月1日、定例護摩のお沙汰です。

「太陽が大地を乾かす月。潤いを得よ。潤いを得よ。」

今月は土地・場所が乾きやすくなります。物理的にもエネルギー的にもです。乾きというのは、基本的に財・豊かさの反対です。四大文明が流れる水の傍で発展したのは、流れる水は豊かさをもたらすからです。ですので、家の敷地内、特に玄関付近に水の匂いがするまで水をまく。マンション等でしたら、器に入れて玄関に水を置いておく、などが効果的です。実践なさる方は、できるかぎり毎日水をまく・水をかえることを推奨いたします。特に器に水を入れて置いている場合、その水には動きがありません。流れる・動く水は豊かさをもたらしますが、動かない・停滞する水は場所を腐らせます。

## 【定例護摩供養・祈祷 お申込みについて】

毎月1日・15日のご供養・ご祈祷の用意は、遅くとも前日までには終わらせておられます。ですので、払込票の到着やお申込みが1日・15日の直近ですと、できるだけ努力は致しますが、次回の定例護摩で執行させていたたく場合がございます。ご了承くださいませすようお願い申し上げます。

## 【お知らせ】

昨年、三ヶ所の柴燈護摩に参拝し、身近におられた方にお声がけしたところ、ご希望がありましたので同行いたしました。瑞祥院の行事ではございませんが、修行の意味で参拝ご希望の方はご一報ください。

## 【行事予定】

《定例護摩供養・祈祷》

毎月一日・十五日

《ヨガ講習》

毎週金曜日 午前十時より十一時まで

《龍王祭》

毎月六日

《春のお彼岸 施餓鬼会》

3月19日・20日・21日 十五時より